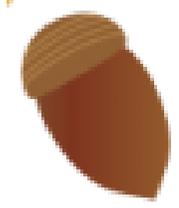




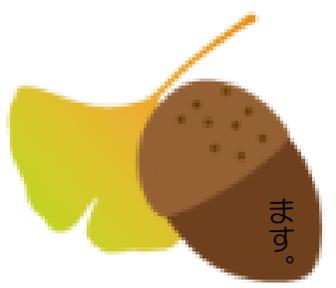
「当たりの前」を「当たりの前」にする子供達



席に座って勉強して、「当たりの前」。家に帰って宿題して、「当たりの前」。毎朝あいさつして、「当たりの前」。毎日毎日、子供たちが行っているんだよ、「当たりの前」のことだけですよ。しかし、その当たりの前を大人はどう見ているのでしょうか。私は、こんな「当たりの前」をしている子供たちの姿を見るととても嬉しいし、たくさん見ていたい。そう思うのです。だから、朝のよいあいさつを見ると、「今日は、〇〇の通学班は、いっあいさつしていたね。」と。一斉下校できちんと座って待っている子がいると、「△△さんと△△さんの座の方をみてごらん。」と褒めたり紹介したりしたくなるのです。



先日、郡Pの研修会で、絵本作家「くすのきしげのり」さんのお話を聞かせていただきました。その中で、「今日一日を大事にしながら生きることの大切さ」や『夢や志をもつ』という話は、『職業』だけでなく、『生き方』そのものを大事にしようと思うこと「など、多くのことを絵本の読み聞かせとともに聞かせていただきました。特に、子供たちの志(生き方)を決めるのは大人の深い愛情であることを改めて思い知らされました。いけないことをしていると思ったら、思いとどまる人になることも、周りの大人の生き方から学んでいるんだと。私は、保護者の方の子供さんに対する深い深い愛情に勝ることはできません。ですから、せめて、冒頭に話したような見方・褒め方・紹介の仕方しかできませんが、それでも、あとから聞くと、「恥ずかしかったけど、嬉しかった。」と、はにかんで言う子供がいることを励みにして、「これからも、「当たりの前」を頑張っている子供たちを応援し続けたいと思



学校長



田丸 栄